ACSES ニュースレター_２４３６号（2023 年１月６日）

発行：NPO 法人教育研究機関化学物質管理ネットワーク（ACSES）事務局

―目次（12 頁）―

[1] 化学物質関係事故、事件関係
◇栃木市では工場燃える　相次ぐ火事 関東各地で<Web 報道>
◇工場のプレハブ倉庫で火災　１人けが　消火活動続く　埼玉・白岡市<放送報道>
◇[米国] 幼児の大麻入り食品誤食、５年で１５倍に激増 米研究<Web 報道>
◇事故・事件対策、措置、訴訟等
・救急搬送困難、初の7千件超　コロナに年末年始が影響<Web報道>
・手術ミス新生児死亡、和解　医院側、解決金と哀悼の意<Web報道>
・サイバー保険に熱視線　被害認知で企業の加入急増<Web報道>
・労災レセプト電算処理システム　マスタコード<厚生労働省>
□大災害、原発事故対策
[大災害対策]
・藤田医大、学生全員「防災士」に　養成講座を必修化、全国初<Web報道>
[大震災対策]
・関東大震災の特設サイト　気象庁開設、備え促す<Web報道>
[福島原発事故]
・IAEA は東京電力福島第一原子力発電所における ALPS 処理水の安全性レビューのうち、「IAEA による独立したサンプリング、データの裏付け及び分析活動」に関する報告書を公表しました<経済産業省>
[2] [特集] 新型コロナウイルス感染症
[状況]
◇省庁発表
◇マスコミ報道
[対策・予防]
◇マスコミ報道　見出し
[3] 健康安全
◇元「肥満」でも症状悪化　マウスの加齢黄斑変性―京大病院など<Web 報道>
[4] 医薬品
◇動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令の一部を改正する省令（農林水産省令第１号）<官報>
[5] 廃棄物関係
◇廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十五条の四の四第一項の産業廃棄物の無害化処理に係る認定の申請があった件（環境省告示第１号）<官報>
[6] 温暖化対策関係
◇昨年の平均気温、歴代４番目　12 月に冷え込み、過去最高を超えず<新聞報道>
[7] 調査、公募、意見募集等
［公募、意見募集等］　２件
[8] 関連会議等の開催案内、開催記録・報告、資料等
［開催案内］　５件　　［開催記録、報告、資料等］　３件
[9] その他
◇インフルエンザ、感染症関係：10 件　　◇その他：１件

薺（ナズナ、ぺんぺん草、三味線草（シャミセングサ））

****

[1] ***化学物質関係事故、事件関係***

◇栃木市では工場燃える　相次ぐ火事 関東各地で

＜FNN プライムオンライン　2023 年１月６日＞　https://www.fnn.jp/articles/-/467193

https://news.yahoo.co.jp/articles/db3f8eea200c4f7c5c66b0006d778bdf655c46df

関東各地で火事が相次ぎ、栃木市では工場が燃えた。

5 日午後 6 時前、栃木市西方町で「工場が燃えている」と通報があった。

警察によると、現場はプラスチックの原料を製造する工場で、火はおよそ 6 時間後に消し止められた。

出火当時、工場は業務時間外で、従業員などはおらず、巻き込まれた人もいないという。

◇【速報】工場のプレハブ倉庫で火災　１人けが　消火活動続く　埼玉・白岡市

＜テレ朝 news　2023 年１月５日＞　https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000282264.html

埼玉県白岡市にある工場のプレハブで火事があり、１人がやけどのけがをしています。

警察と消防によりますと、5 日正午過ぎ、白岡市で「プレハブが燃えている」と通報がありました。

燃えているのは工場の倉庫として使われているプレハブの 3 棟です。

500 平方メートルほどが燃え、現在も消火活動が続いています。

この火事で１人が腕にやけどをしましたが、命に別状はないということです。

◇[米国] 幼児の大麻入り食品誤食、５年で１５倍に激増 米研究

＜ＡＦＰ＝時事　2023 年１月５日＞　https://www.jiji.com/jc/article?k=20230105043944a&g=afp

嗜好（しこう）用マリフアナ（大麻）を合法化する州が増えている米国で、大麻入り食品を誤食する幼児の数がこの５年で約１５倍に激増したとする研究結果が３日、米医学誌「小児科学」に掲載された。

米保健当局の集計によると、５歳以下の子どもが大麻入り食品を摂取した事故は、２０１７年には２００件余りだったが、２０２１年には３０５０件を超えた。

大麻入り食品はキャンディーやチョコレート、クッキーなど菓子の形をしたものが多く、子どもの興味をそそりやすい。だが、子どもが摂取した場合、体重が少ないため深刻な状態に陥る可能性がある。

５年間の調査期間中に大麻入り食品を摂取したと報告があった子どもは約７０００人だった。死亡例はなかったものの、約８％が集中治療室での措置を必要とし、１５％近くが入院した。

主な症状は、昏睡（こんすい）状態になるなどの中枢神経系の機能低下や頻脈、嘔吐（おうと）などで、点滴治療が行われた。

研究論文の著者は、子どもの誤食が急増したのは「成人に対して嗜好用大麻の使用を合法化する州が増えたことに関係し得る」と指摘。誤食の９０％以上が家庭で発生していることから、大麻入り食品は鍵のかかる容器に入れ、子どもに分からない場所で保管するよう保護者に呼び掛けている。

◇***事故・事件対策、措置、訴訟等***

・救急搬送困難、初の７千件超　コロナに年末年始が影響

＜共同通信　2023 年１月５日＞　https://nordot.app/983669030858489856

総務省消防庁は 5 日、救急車の到着後も搬送先が決まらない「救急搬送困難事案」が、昨年 12 月 26 日～1 月 1 日の 1 週間に全国の主な 52 消防で計 7158 件あったと発表した。2 週連続で過去最多を更新し、初めて 7 千件を突破した。新型コロナウイルス感染が続いていることに加え、年末年始で医療機関の休診も影響したとみられる。

救急搬送困難事案のうち発熱などコロナ疑いがあるのは、前週比 8%増の 2311 件で 6 週続けて増えた。冬は気温低下で心疾患などの搬送者が増えがちなため、コロナ疑い以外のケースは 4%増の 4847 件で過去最多となった。

・手術ミス新生児死亡、和解　医院側、解決金と哀悼の意

＜共同通信　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.47news.jp/news/8774747.html

出産の分娩時にバランスボールに乗せられ転倒して子宮が破裂し、手術に使ったガーゼを体内に置き忘れられた上、生まれた男児が重い障害を負った後に死亡したとして、山梨県都留市の夫婦が大阪市の産婦人科クリニックと医師に計約 9 千万円の損害賠償を求めた訴訟が、5 日までに大阪地裁で和解した。クリニック側がミスを謝罪するとともに男児に哀悼の意を表し、解決金を支払う内容。

和解は昨年 12 月 13 日付。

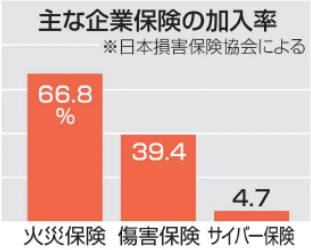
提訴は 2018 年 8 月。訴状によると原告の女性は、13 年 6 月に破水してクリニックに入院。医師は分娩を促すため、ベッド上に置かれたバランスボールに覆いかぶさるよう、女性に指示した。

・サイバー保険に熱視線　被害認知で企業の加入急増

＜共同通信　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.47news.jp/news/8770418.html

企業の間で損害保険各社が取り扱うサイバー保険に熱視線が注がれている。大手 4 社の 2022 年 4～9 月期における加入件数の前年同期比増加率は 80%を超え、2 倍以上になった企業もある。サイバー攻撃による被害の深刻さが認知されてきたことが背景にあり、中小企業でも関心は高まっている。一方で加入率はまだごくわずかで、損保各社が加入者拡大に取り組んでいる。

サイバー保険は、幅広い企業への攻撃が明らかになる中で認知度が高まってきた。日本損害保険協会による中小企業を対象にした調査では、サイバーリスクに「とても関心がある」「やや関心がある」と回答した企業は計 84.1%に上る。



・労災レセプト電算処理システム　マスタコード

＜厚生労働省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=k3eiuxHlPBCeBTUBY

□*大災害、原発事故対策*

[大災害対策]

・藤田医大、学生全員「防災士」に　養成講座を必修化、全国初

＜共同通信　2023 年 1 月 3 日＞　https://www.47news.jp/news/8766762.html

藤田医科大（愛知県豊明市）が、民間資格「防災士」の養成講座を必修化し、学生全員の資格取得を目指す取り組みを始めた。藤田医科大は災害時の拠点病院を抱えており、学生の災害対応能力を高める狙い。認証機関の日本防災士機構によると、全国で約 50 大学が取得に取り組むが、全学生が対象になるのは初。

入学生は例年 600 人超で、2 年生で受講し卒業単位となる。2 日間で計 12 時間以上の講座を受けて試験に合格した上で、資格取得に必要な救命救急講習の修了を目指す。費用は大学側が負担する。

2022 年度は卒業を控えた学生を除いた在校生約 1800 人が対象となる。

[大震災対策]

・関東大震災の特設サイト　気象庁開設、備え促す

＜共同通信　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.47news.jp/news/8771443.html

関東大震災から 100 年の節目を迎えるのを前に、気象庁は 4 日、震災の被害状況や地震・津波への備えについて学べる特設サイトを同庁ホームページに開設した。防災教育を含めて災害対策に活用してもらい、大地震の際の被害軽減につなげるのが狙い。

サイトには、気象庁が保管している東京都や神奈川県などの被災を記録した写真のほか、岐阜測候所（現在の岐阜地方気象台）で捉えた地震波形を掲載。観測者の体感や建物の被害状況から決定していた当時の震度の分布図も示した。首都直下地震など、関東で起こり得る地震の特徴や防災知識も掲載している。

[福島原発事故]

・IAEA は東京電力福島第一原子力発電所における ALPS 処理水の安全性レビューのうち、「IAEA による独立したサンプリング、データの裏付け及び分析活動」に関する報告書を公表しました

＜経済産業省　2023 年 1 月 5 日＞

https://www.meti.go.jp/press/2022/01/20230104001/20230104001.html?from=mj

****

[2] *[特集] 新型コロナウイルス感染症*

[状況]

◇省庁発表

・新型コロナウイルス感染症の患者等の発生について（検疫）

＜厚生労働省　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=8xfD_k4UPF6yokRhY

・新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の発生について（検疫）

＜厚生労働省　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=cZVBfMyWvtwwIMDjY

・新型コロナウイルス感染症の現在の状況について（令和５年１月５日版）

＜厚生労働省　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=1zPn2mowGHqWhmVFY

◇日本、年末年始もコロナ世界最多　中国 4 位、感染実態反映は不正確

＜共同通信　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.47news.jp/news/8774627.html

世界保健機関（WHO）の新型コロナウイルス感染症の集計で、昨年 12 月 26 日から今月 1 日までの週間感染者数は、日本が 94 万 6130 人で世界最多だった。一方、感染拡大が懸念されている中国は韓国、米国に次いで 4 番目に多い 21 万人超にとどまっており、WHO は実態を正確に反映していないとみている。

同期間の週間死者数は、2501 人の米国が最多で、日本は 2 番目に多い 1941 人。中国は 5 番目に多い 648 人だが、新型コロナ感染者が死亡した際、呼吸器系不全が原因でない場合は死者数に含めていないため、WHO は死者数も過少報告されているとの見方を示している。

・新型コロナ 専門家“実際の感染状況 反映していない可能性”

＜NHK　2023 年 1 月 4 日＞　https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230104/k10013941141000.html

◇国内コロナ死者、最多の 498 人　23 万 979 人感染

＜共同通信　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.47news.jp/news/8774904.html

国内で 5 日、498 人の新型コロナウイルス感染症による死者が確認された。1 日当たりの公表数としては昨年 12 月の 438 人を上回り過去最多。流行「第 8 波」で感染者が増えていることや、年末年始の死者数を含めて公表した自治体があったことが影響したとみられる。感染者は新たに 23 万 979 人を確認、前週の同じ曜日と比べると 4 万人近く増加した。

死者の内訳は愛知 34 人、栃木 33 人、北海道 30 人など。感染者は東京 2 万 735 人、大阪 1 万 5772 人、愛知 1 万 3174 人など。

厚生労働省によると、全国の重症者は 650 人で前日から 35 人増えた。

◇新型コロナ “重症用ベッドほぼ満床” 年明けの医療現場はいま

＜NHK 2023 年 1 月 5 日＞ https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230105/k10013941541000.html

年明けとなる 5 日、新型コロナウイルスへの感染が新たに確認された人の数は、西日本を中心に 12 の県で過去最多となり、全国では 22 万人を超えました。

都内の大学病院では 12 月下旬から重症患者のためのベッドがほぼ満床となり、新たな患者の受け入れが難しい状態が続いています。このままではコロナ以外の救急医療にも影響が出かねないとして、現場の医師は危機感を募らせています。

新型コロナと向き合う医療機関の現状は、いまどうなっているのか？ 現場の医師に Q&A 形式で詳しく聞きました。

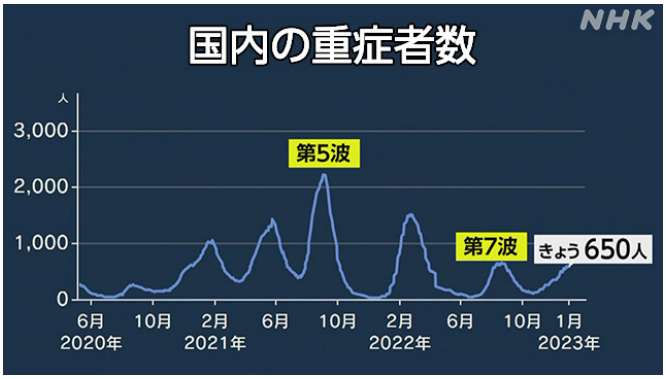
都内では新たな重症患者の受け入れ難しい病院も

東京 文京区の日本医科大学付属病院では重症のコロナ患者用に 6 床を確保していますが、12 月下旬からほぼ満床の状態が続いています。

病院によりますと近隣の病院でコロナの院内感染が相次ぎ、重症の患者が回復しても受け入れ先が見つからないということです。

このため、新たな患者の受け入れが難しくなっていて、入院が必要な患者の救急搬送は断らざるをえない状況となっています。

全国の重症者は増加が続いています。



5 日時点で 650 人となり、2000 人を超えた「第 5 波」よりは少ないものの、去年の夏、「第 7 波」のピークと同じ水準です。

日本医科大学付属病院では、5 日、医師たちが防護服を着てドクターカーに乗り込み、病院で受け入れられない患者のもとに直接、診療に出向く様子も見られました。

冬は心筋梗塞や脳卒中などの搬送も多く、これ以上コロナの患者が増えると一般の救急医療にも影響が出かねないとして、現場の医師は危機感を募らせています。

横堀將司高度救命救急センター部長は「正月明けで人の動きも戻り、重症患者の数は今後、増える可能性がある。現場はこれからさらにひっ迫すると考えられるので感染対策はもちろん、ほかのけがや病気で医療を利用せずに済むよう十分注意してほしい」と話しています。

【詳しく】新型コロナ「第 8 波」重症・救急医療の現状

今後、重症患者の受け入れ体制、そして救急医療へのアクセスはどうなるのか？

日本医科大学付属病院 高度救命救急センターの横堀部長に Q&A 形式で詳しく聞きました。（取材日は 2023 年 1 月 5 日）

Q. コロナの医療体制の現状は？

A. 12 月下旬からコロナの重症患者が急に増え、ほぼ満床の状態が続いています。

周辺の病院でも医師や看護師が感染したり、濃厚接触者になったりして、患者が受け入れられなくなるところが出ています。

私たちの病院に入院して回復したものの、転院先が見つからないので病床が空かないということも起きています。

このため、重症のコロナの患者の救急搬送の依頼があっても断らざるを得ない状況です。

Q.一般の救急への影響は？

A.私たちの病院では重症のコロナ病床を一定数確保するため、その他の患者のための病床は3分の2程度に減らしています。

看護師などのスタッフのやりくりがつかないためです。

幸い、正月は人の動きが少なかったこともあり、コロナ以外の一般の救急患者は少なく何とか乗り切れましたが、例年だと冬には肺炎や心筋梗塞、脳梗塞などの救急搬送が増える傾向があります。

実際に正月が明けた4日から5日にかけては例年並に救急依頼が入っていますし、これから都内に人が戻ってきて経済活動が活発になってきたときに感染者の増加だけでなく、一般の救急患者の数がどう変わるのか注視しないといけません。

Q.第8波、今後の見通しは？

A.年末年始は報告されている患者の数が減っていますが、今後のピークがどれくらいになるのかが心配です。

正月が明けて人の動きが活発になったり、海外との往来が増えたりして、患者が増えてくることも考えられます。

また、いまの感染の広がり方を見てみると、重症患者の数はしばらくは高めが続いていくのではないでしょうか。

デルタ株が流行した2021年の夏に比べれば、いまの方が重症患者は減っていますが、高止まりの状態が続く可能性があるかもしれません。

今後この状況が続けば搬送までの待ち時間が長くなったり、搬送先が見つからなかったりとすぐに救急医療にアクセスができない方が多くなってくると思います。

コロナと一般の患者さんを診るバランスがなかなか取りにくいところがありますけど、ドクターカーを使ったりとか診療の仕方を工夫をしながら1人でも多くの方を救命できるように努力しています。

感染症法上の新型コロナウイルスの扱いを「2類相当」から「5類」などに変えることが議論されていますが、分類が変わってもウイルスの特性自体はそれに合わせて変わるわけではありません。

「明日から5類ですよ」と言われてもしばらくは感染対策を維持したまま診療をしていくと思うので、どこでも診療できるようになったり病床が一気に増えたりはしないと思います。

むしろ医療費が公費負担ではなくなって受診をためらう人が出たり、ワクチンの接種が有料になって接種をためらう人が出たりして、感染のコントロールがつかなくなる可能性を心配しています。

Q.呼びかけたいことは

A.救急車が出払っていてすぐに駆けつけることが難しい状況なので、本当に必要なときにだけ救急車を呼んで欲しいと思います。

もし迷ったときは「#7119」の救急安心センターに相談するのも大事です。

また、重症化して搬送されてきた患者さんは新型コロナウイルスのワクチンを打っていない人が多い印象があるので、3回目や4回目のワクチン接種が済んでいない人はやはり打って欲しいと思います。

コロナに感染しているとそのほかの病気でも受診しにくくなるので、急病でも受診できない可能性があります。

日々の体調管理、感染対策をしっかりしていただきたいです。

また、けがには気をつけて欲しいと思います。去年もこの時期に東京で雪が降り、転倒して骨折される方が相次ぎました。食べ物をのどにつまらせて窒息される方も毎年、冬に多いです。

今後、救急医療へのアクセスが難しくなることも想定されるので、こうした事故にも注意して生活してください。

保健所も警戒感強める　入院調整に時間がかかる状態続く

東京　八王子市の保健所では、市内の一日の新型コロナの感染確認数が去年11月ごろから増え始め、年明け以降も患者の入院の調整に時間がかかる状態が続いています。

中には八王子市内で受け入れ病院が見つからず、市外にエリアを広げて病院を探すケースも相次いでいるということです。

保健所では人の往来がさかんな年末年始のあと感染者が急激に増えることや、インフルエンザとの同時流行でさらに医療機関がひっ迫しないか警戒感を強めています。

八王子市は医療機関のさらなるひっ迫を防ぐため、発熱やせきなどの症状がある場合は、まずは新型コロナの検査キットでみずから検査したうえで、重症化リスクなどを踏まえ、受診するよう呼びかけています。

八王子市保健所の鷹箸右子副所長は「今後の感染者数の増加に危機感を持っています。同時流行に対する医療機

関のひっ迫状況を共有し重症化リスクの高い患者を入院や治療に適切につなげていきたい」と話していました。

松野官房長官「冬休み明け コロナとインフル同時流行に注意」

松野官房長官は、午前の記者会見で「減少傾向が継続しているが、年末年始の検査件数減少の影響も考えられる。今後、年末年始の接触機会の増加などが感染状況に与える影響に注視が必要なほか、特に学校が再開する冬休み明け以降の新型コロナとインフルエンザの同時流行にも注意が必要だ」と指摘しました。

そのうえで「政府としては自治体などの関係者と連携し、引き続き病床や外来医療体制の確保、ワクチンの早期接種に取り組んでいく」と述べるとともに、国民に対し、適切なマスクの着用や手指消毒などの基本的な感染対策の徹底を呼びかけました。

[対策・予防]

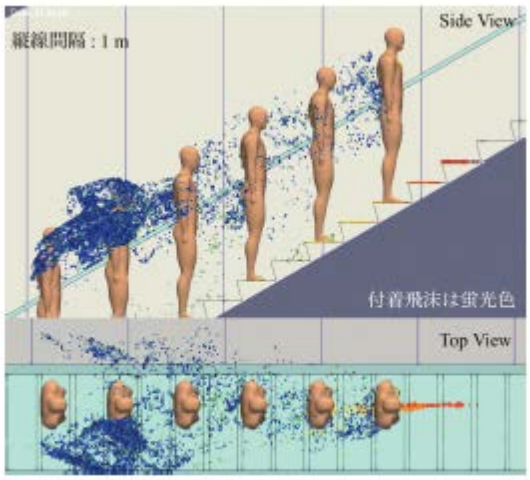
◇飛沫、エスカレーター3段空けて　コロナ、上りリスク大

＜共同通信　2023年1月5日＞　https://nordot.app/983651931229028352

エスカレーターでマスクを着けずにせきをした場合、新型コロナウイルスを含む飛沫が周囲にどう広がるかコンピューターで試算した結果を京都工芸繊維大などのチームが5日までに発表した。上りの方が後ろに並ぶ人の感染リスクは高く、チームは「間隔を3段空けるとリスクを十分下げられる」としている。

チームは身長175センチの男性計10人がエスカレーターに1列に並び、最前列の人が前方にせきをした状況を想定。1.5ミリ以下の飛沫がどう広がるか計算した。

下りでは飛沫はすぐに上昇し、人の上を通り過ぎたが、上りでは腰付近まで落ちた後に再浮上し、人の間を長時間浮遊した。



上りエスカレーターで最前列の人がせきをした場合の飛沫拡散のイメージ
（京都工芸繊維大提供）

◇濃厚接触者の受験生　タクシーOK　大学入試、流しの車両は使えず

＜共同通信　2023年1月5日＞　https://www.47news.jp/national/8774833.html

文部科学省は5日、新型コロナの濃厚接触者が大学受験する際、昨年と同様に条件付きでタクシーの利用を認めると発表した。同省のガイドラインはタクシーを含め公共交通機関を使わずに試験場へ行くことを求めているが、例外的な運用とする。同省は高校へ周知するよう都道府県教育委員会などに要請した。

受験生は無症状の濃厚接触者であることをタクシー会社に告げた上で予約し、感染対策を講じた車両を使うのが条件。流しの車両は使えず、他の客とも乗り合わせないよう徹底する。受験生がタクシー会社を見つけられない場合に依頼先を紹介するため、文科省は10日から電話相談窓口を設ける予定。

◇コロナ後遺症「職場も理解を」復帰後も熱や倦怠感…会社側と連携必要　８人に１人が発症

＜岐阜新聞　2023年1月4日＞　https://www.gifu-np.co.jp/articles/-/181209

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、４日には多くの企業などで仕事始めを迎える。職場での感染

防止策や、感染者数の推移に関心が集まるが、忘れてならないのは新型コロナの後遺症が長引き、仕事を続けながら治療に励む人も身近にいることだ。コロナ患者の８人に１人が出るとの調査もある後遺症。当事者は職場の理解を求め、医師も「仕事と治療の両立のためには、関係者の連携が必要」と呼びかける。

「コロナにかかって世界が変わってしまった」。岐阜地域に住むパートの女性（３５）は声を落とす。

女性はぜんそくなどの基礎疾患があり、新型コロナにかからないよう人一倍、警戒をしていた。調理や清掃などに当たるサービス業で多数の人との接触があるため、仕事中は常にゴム手袋をするなど予防に余念はなかったが、昨年２月に感染。職場に復帰した現在も味覚障害や倦怠（けんたい）感、微熱、咳など複数の症状が続く。吸入器が手放せず、家に帰ると疲れで動けない日もあるという。

元々きちょうめんな性格だが、復帰後は電気の消し忘れやごみを置き忘れるなど、仕事のミスが増えた。「怠けている」との誤解を与えないよう、同僚には「後遺症の影響で忘れっぽくなっている」と自分から明かしている。

医師からの助言で、重い荷物を運ぶ作業を外してもらうなど、職場は配慮をしてくれた。ただ、冬になり寒くなってからは、息苦しい症状が再発。「後遺症で日常的に苦しんでいる人がいるという事実がもう少し社会に浸透し、理解者が増えるとうれしい」と願っている。

女性の担当医で、新型コロナ後遺症外来を設ける「はしもと内科」（岐阜市）の川瀬幸典理事長は「後遺症患者の第一目標は、職場への復帰。治療と仕事を両立するには会社側との連携が重要」と指摘。企業側には「復帰の可否や望ましい配慮などを助言する上で、診察時に患者から職務内容や勤務形態などを一つずつ聞き取らなければならず、時間がかかる。人事労務担当者らが事前に仕事に関する情報をまとめた『勤務情報提供書』があると円滑に進む」と求めた。

****

[3] ***健康安全***

◇元「肥満」でも症状悪化　マウスの加齢黄斑変性―京大病院など

＜時事ドットコム　2023年１月６日＞　https://www.jiji.com/jc/article?k=2023010600116&g=soc

肥満が要因の一つとされる目の難病「加齢黄斑変性」について、京都大病院の畑匡侑特定講師らの研究グループがマウスを使った実験を行ったところ、肥満状態から痩せたマウスでも、正常なマウスより症状が悪化していることが分かった。肥満だった時の「記憶」が自然免疫細胞に残っていることが影響しており、この仕組みを制御できれば新たな治療法開発につながる可能性があるという。論文は６日付で米科学誌「サイエンス」に掲載された。

加齢黄斑変性は、年齢を重ねるに従って網膜に異常な血管が生じて視力が低下する難病。遺伝のほか肥満や喫煙が要因と考えられており、日本人の失明原因の４位となっている。

研究グループが、高脂肪食で肥満にさせてから体重を元に戻したマウスと、通常のマウスに加齢黄斑変性を発症させたところ、過去に肥満だったマウスの方が症状が悪化していることを確認。脂肪組織に含まれる自然免疫細胞が、痩せた後でも血管をつくる因子を分泌しやすい状態のままであることが分かった。

畑特定講師は「実際の患者でもマウスと同じ状況が起こっているかを検証しているところで、検証を重ねて新たな治療法につなげたい」と話している。

****

[4] ***医薬品等***

◇動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令の一部を改正する省令（農林水産省令第１号）

［官報］　令和５年１月６日　号外　第３号　1～2頁

https://kanpou.npb.go.jp/20230106/20230106g00003/20230106g000030001f.html

○農林水産省令第１号

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和三十五年法律第百四十五号）第八十三条の四第一項の規定に基づき、動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令の一部を改正する省令を次のように定める。

令和５年１月６日　　農林水産大臣　　野村 哲郎

動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令の一部を改正する省令

動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令（平成二十五年農林水産省令第四十四号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

<table>
<tr><th>改正後</th><th>改正前</th></tr>
<tr><td>別表第１（第２条、第４条及び第５条関係）
<table>
<tr><th>動物用医薬品</th><th>動物用医薬品
使用対象動物</th><th>用法及び用量</th><th>使用禁止期間</th></tr>
<tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr>
<tr><td>セフチオフルを有効成分とする注射剤</td><td>（略）
豚</td><td>（略）
（略）</td><td>（略）
食用に供するためにと殺する前 <u>14日間</u></td></tr>
<tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr>
</table>
注１～20　（略）</td><td>別表第１（第２条、第４条及び第５条関係）
<table>
<tr><th>動物用医薬品</th><th>動物用医薬品
使用対象動物</th><th>用法及び用量</th><th>使用禁止期間</th></tr>
<tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr>
<tr><td>セフチオフルを有効成分とする注射剤</td><td>（略）
豚</td><td>（略）
（略）</td><td>（略）
食用に供するためにと殺する前 <u>70日間</u></td></tr>
<tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

附　則

この省令は、公布の日から施行する。

****

[5] ***<u>廃棄物関係</u>***

◇<u>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十五条の四の四第一項の産業廃棄物の無害化処理に係る認定の申請があった件（環境省告示第１号）</u>

［官報］　令和５年１月５日　本紙　第890号　6～7頁

https://kanpou.npb.go.jp/20230105/20230105h00890/20230105h008900006f.html

****

[6] ***<u>温暖化対策関係</u>***

◇<u>昨年の平均気温、歴代４番目　12月に冷え込み、過去最高を超えず</u>

＜朝日新聞　2023年１月４日＞　https://www.asahi.com/articles/ASR146VQSR14UTIL011.html

気象庁は４日、2022年の年平均気温が過去30年（1991～20年）の平均値を０・６度上回ったと発表した。昨年12月には、過去最高だった20年（平均値を０・65度上回る）を超える見込みと発表していたが、実際には過去４番目の高さだった。

気象庁は、昨年11月までの平均気温が平均値を０・７度上回っていたことから、1898年の統計開始以来の過去最高に達すると見込んでいた。特に６月下旬の東日本と西日本、７月上旬の北日本での高温が顕著だった。

しかし、12月に入ると中旬…

****

[7 ***<u>調査、公募、意見募集等</u>***

[公募、意見募集等]

◇<u>【受付開始】令和４年度「外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修」を実施します</u>

＜厚生労働省　2023年１月５日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=U7djXu60nP4SA3PBY

◇<u>令和５年度「スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラム（次世代超高速電子計算機システム利用の成果促進）」（高性能汎用計算機高度利用事業費補助金）の公募について</u>

＜文部科学省　2023年１月５日＞　http://mailmaga.mext.go.jp/c/agnWadar3QbZ3RbI

****

[8] ***関連会議等の開催案内、記録・報告、資料等***

[開催案内]

・「令和４年度第２回 厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会」を開催します　　１月 12 日

＜厚生労働省　2023 年１月５日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=g2ezjj5kTC7C068RY

（１）令和４年薬機法等改正の施行状況について

（２）大麻規制検討小委員会とりまとめについて

（３）その他

・第４０回メタンハイドレート開発実施検討会　　１月 13 日

＜経済産業省　2023 年１月４日＞

https://wwws.meti.go.jp/interface/honsho/committee/index.cgi/committee/49007

1. 砂層型：日本周辺の有望濃集帯の選定に向けた海洋調査
2. 砂層型：アラスカでの長期陸上産出試験に係る進捗状況
3. 表層型：生産・回収技術開発及び海洋調査等の進捗状況
4. その他

・食品安全委員会（884 第回）の開催について【1 月 10 日開催】

＜内閣府　2023 年１月５日＞　http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/annai884.html

（１）委員長選出

（２）その他

・食品安全委員会　評価技術企画ワーキンググループ（第 27 回）の開催について　　１月１６日

＜内閣府　2023 年１月５日＞　http://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/annai/wg_gijutsukikaku_annai_27.html

（１）疫学研究で得られた用量反応データへのベンチマークドーズ法の適用について

（２）その他

・「歯学教育モデル・コア・カリキュラム令和 4 年度改訂版に関するシンポジウム」の開催について

1 月 16 日

＜文部科学省　2023 年１月４日＞　http://mailmaga.mext.go.jp/c/agnUadastPzbapbG

歯学生が卒業までに修得すべき基本的歯科診療能力（知識・技能・態度）に関する学修目標を示した「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」が令和４年（2022 年）11 月に改訂されました。この改訂版「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」は、令和６年（2024 年）度入学生からの導入が予定されています。

今回、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」令和４年版を各施設でのカリキュラムに活用していただくために、改訂の概要と要点を説明させていただくシンポジウムを開催いたします。

[開催記録、報告、資料等]

・厚生科学審議会（予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会）　　12 月 16 日

＜厚生労働省　2023 年１月４日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=U7die9El_NBexeDBY

（１）新型コロナワクチンの接種及び副反応疑い報告の状況並びに接種後の健康状況に係る調査等について

（２）その他

・地震火山観測研究計画部会（第 50 回）　配付資料　　12 月 21 日

＜文部科学省　2023 年１月５日＞　http://mailmaga.mext.go.jp/c/agnWadar3QbZ3RbF

1. 次期観測研究計画の検討について
2. その他

・原子力科学技術委員会（第 31 回）　議事録　　11 月 1 日

＜文部科学省　2023 年１月５日＞　http://mailmaga.mext.go.jp/c/agnWadar3QbZ3RbG

1. 原子力科学技術を取り巻く最近の状況について
2. 「もんじゅ」サイトにおける新たな試験研究炉の検討状況について
3. 分野別研究開発プログラム評価について

4. その他

****

[9] ***その他***

◇***インフルエンザ、感染症関係***

・インフルエンザに関する報道発表資料

＜厚生労働省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=s1eCmzHFHDC-JRchY

・インフルエンザの発生状況

＜厚生労働省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=k3eiuxHlPBCeBTYBY

・家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ発生状況について　（疑似患畜、群馬県前橋市）

＜環境省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.env.go.jp/press/111080_00018.html

・野鳥における高病原性鳥インフルエンザ発生状況について　（疑い事例、群馬県館林市）

＜環境省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.env.go.jp/press/111118_00080.html

・福岡県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について

＜農林水産省　2023 年 1 月 3 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230103_4.html

・千葉県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について

＜農林水産省　2023 年 1 月 3 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230103.html

・香港及びシンガポール向け家きん由来製品の輸出再開について（北海道及び兵庫県）

＜農林水産省　2023 年 1 月 5 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230105_9.html

・佐賀県武雄市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内 26 例目）に係る移動制限の解除について

＜農林水産省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230104.html

・山形県鶴岡市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内 29 例目）に係る移動制限の解除について

＜農林水産省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230104_2.html

・福島県飯舘村で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内 28 例目）に係る移動制限の解除について

＜農林水産省　2023 年 1 月 4 日＞　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/230104_3.html

---

◇***その他***

・LGBT などの学生にトイレや健診で個別対応の大学 半数以下に

＜NHK　2023 年 1 月 6 日＞　https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230106/k10013942271000.html

LGBT など性的マイノリティーの学生に対する大学側の対応について日本学生支援機構が調査したところ、トイレや健康診断で個別の対応をしていると回答した大学は半数以下にとどまりました。

日本学生支援機構は 2 年に 1 度、全国の大学や短期大学などを対象に、学生支援の取り組みについて調査していて、1162 校が回答した結果を先月、発表しました。

LGBT など性的マイノリティーの学生への対応についても聞いたところ、

▽「バリアフリーのトイレの利用を案内する」が最も多く 43%

▽「健康診断の受診においては、個別の対応や他の学生がいない時間帯に行う」が 38%

▽「授業や窓口対応での呼称は、当事者の要望に添ったものを使用する」は 35%

などとなりました。

前回、2019 年と比べて数パーセント程度の改善は見られましたが、いずれも半数以下にとどまったほか、回答しなかった大学が 33%ありました。

大学によっても対応に差が見られ、

「健康診断の際に個別の対応を行う」と回答したのは、

▽国立大学では 72%でしたが、

▽私立大学では35%
▽公立大学で27%
となりました。
調査の分析を行った茨城県立医療大学の佐藤純教授は「健康診断を受診するときの配慮などは大きなコストはかからず、早急に取り入れることが可能だ。大学が多様な学生を支援することが重要だ」としています。
********** 以上 **********